

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 013

(2019/20年度 USDA 米国農務省 8月12日発表)

[ハイライト] ①歴史的な大幅作付遅延の為注目された米国のコーン/大豆の生産予想は、前年比コーン▲3.4%、大豆▲19.0%となり世界生産予測を減少させた。②米中貿易協議は米国が対中関税第4弾(3,000億ドル分10%)を9月1日発動したのに対し中国は米国産大豆輸入成約をストップし泥沼化している。③中国におけるASF蔓延はベトナム/ラオス等周辺国にも拡大(別紙1)し全く収束の見通しが立たない状況である。オランダ金融機関 Rabobank は中国豚飼養頭数は今年度1.5~2億頭殺処分(全体の約1/3)・豚肉生産約2千万ト減(世界全体の約20%弱)としており世界的な食肉と穀物生産/貿易等への影響は避けられない。④USDAは中国大豆輸入見通しを85百万ト(昨年90百万ト)と控え目に下方修正したが現況からそれでは収まらない可能性が高い。事実、中国税関総署によると今年1-6月大豆輸入量は3,827万ト(前年比▲14.7%)と減少に転じている。⑤世界の穀物生産/消費は昨年26.8億トまで拡大し、約75億人の人口を支えているが1950年以降の100年の双方の歴史と予測について別紙2に整理した。

1、世界穀物需給の概要(大豆除く)

- ① 生産量: 2,665 百万ト (前年比 1.5%増、前月比変わらず)
- ② 消費量: 2,670 百万ト (前年比 1.3%増、前月比▲0.3%)
- ③ 貿易量: 434 百万ト (前年比 1.5%増、前月比▲0.5%)

2、とうもろこし

- ① 生産量: 1,108 百万ト (前年比 ▲1.3%、前月比 0.3%増)
- ② 消費量: 1,129 百万ト (前年比 ▲0.4%、前月比▲0.5%)
- ③ 貿易量: 170 百万ト (前年比 ▲3.6%、前月比▲0.6%)
- ④ 概況: UKR は史上最高の生産量だが US は前年比▲13 百万ト減(前月比は微増)の為全体では減少。輸出見通しも下方修正されたため期末在庫量予想が増加し市場価格も下記の通り前月比大幅下落した。
価格は \$ 4.00/Bu (前年\$3.70/Bu、前月\$4.34/Bu)と前月比¢34 下落した。

3、小麦

- ① 生産量: 768 百万ト (前年比 5.1%増、前月比▲0.4%)
- ② 消費量: 758 百万ト (前年比 3.0%増、前月比▲0.3%)
- ③ 貿易量: 183 百万ト (前年比 4.9%増、前月比▲0.3%)
- ④ 概況: EU/RUS 等で高温・乾燥による減産見通しあるが US は単収増の為生産量が増加し世界生産も前年比約5百万トの増。
価格は \$ 4.91/Bu (前年 \$ 5.56/Bu、前月\$5.19/Bu)と前月比¢28 下落した。

4、大豆

- ① 生産量: 342 百万ト (前年比▲5.8%、前月比▲1.5%)
- ② 消費量: 354 万ト (前年比 2.2%増、前月比▲0.2%)
- ③ 貿易量: 149 百万ト (前年比 0.6%増、前月比▲1.4%)
- ④ 概況: BRA の6百万ト増産はあるが US の収穫面積が下方修正され前年比▲23 百万トの大幅減。結果、世界全体では約▲20 百万ト減産見通し。
価格は \$ 8.50/Bu (前年\$8.86/Bu、前月\$8.73/Bu)と前月比¢23 下落した。

注1) 上記1の「穀物」は小麦・粗粒穀物(とうもろこし含む)・米の合計量

注2) 価格は、シカゴ商品取引所における各月第一週週末の期近価格

世界の穀物・大豆等の需給

2019年8月12日
米国農務省発表：単位100万トン

主要穀物世界の需給						
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量
全穀物	2017/18	2,617	3,414	415	2,602	812
	2018/19	2,625	3,438	428	2,636	802
	2019/20	2,665	3,466	436	2,679	787
		2,665	3,467	434	2,670	796
小麦	2017/18	762	1,024	182	743	281
	2018/19	731	1,012	174	736	275
	2019/20	771	1,047	183	760	286
粗粒穀物 (とうもろ こし等)	2017/18	768	1,044	183	758	285
	2018/19	1,360	1,745	186	1,377	369
	2019/20	1,396	1,765	208	1,410	355
注1	2017/18	1,396	1,750	206	1,422	328
	2019/20	1,399	1,754	205	1,418	336
大豆	2017/18	342	438	153	339	99
	2018/19	363	462	148	347	115
	2019/20	347	460	151	355	105
		342	456	149	355	102

世界のとうもろこし需給						
	期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	7月	328.75	1,105.14	167.83	1,134.97	298.92
	8月	328.58	1,108.24	169.34	1,129.09	307.72
アメリカ	7月	59.45	352.44	1.27	307.48	54.61
	8月	59.96	353.09	1.27	306.85	52.07
アルゼンチン	7月	4.58	50.00	0.01	15.00	33.50
	8月	4.09	50.00	0.01	15.00	33.50
ブラジル	7月	7.81	101.00	1.00	69.50	34.00
	8月	6.31	101.00	1.00	68.00	34.00
EU	7月	7.24	64.20	20.00	81.50	2.00
	8月	7.25	64.80	21.00	82.50	2.00
日本	7月	1.40	0.00	15.60	15.60	0.00
	8月	1.40	0.00	15.60	15.60	0.00
中国	7月	209.84	254.00	7.00	279.00	0.02
	8月	211.84	254.00	7.00	277.00	0.02
クライナ、	7月	2.02	47.50	1.00	13.70	1.50
ロシア	8月	1.87	49.50	0.06	14.90	34.70

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。

脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

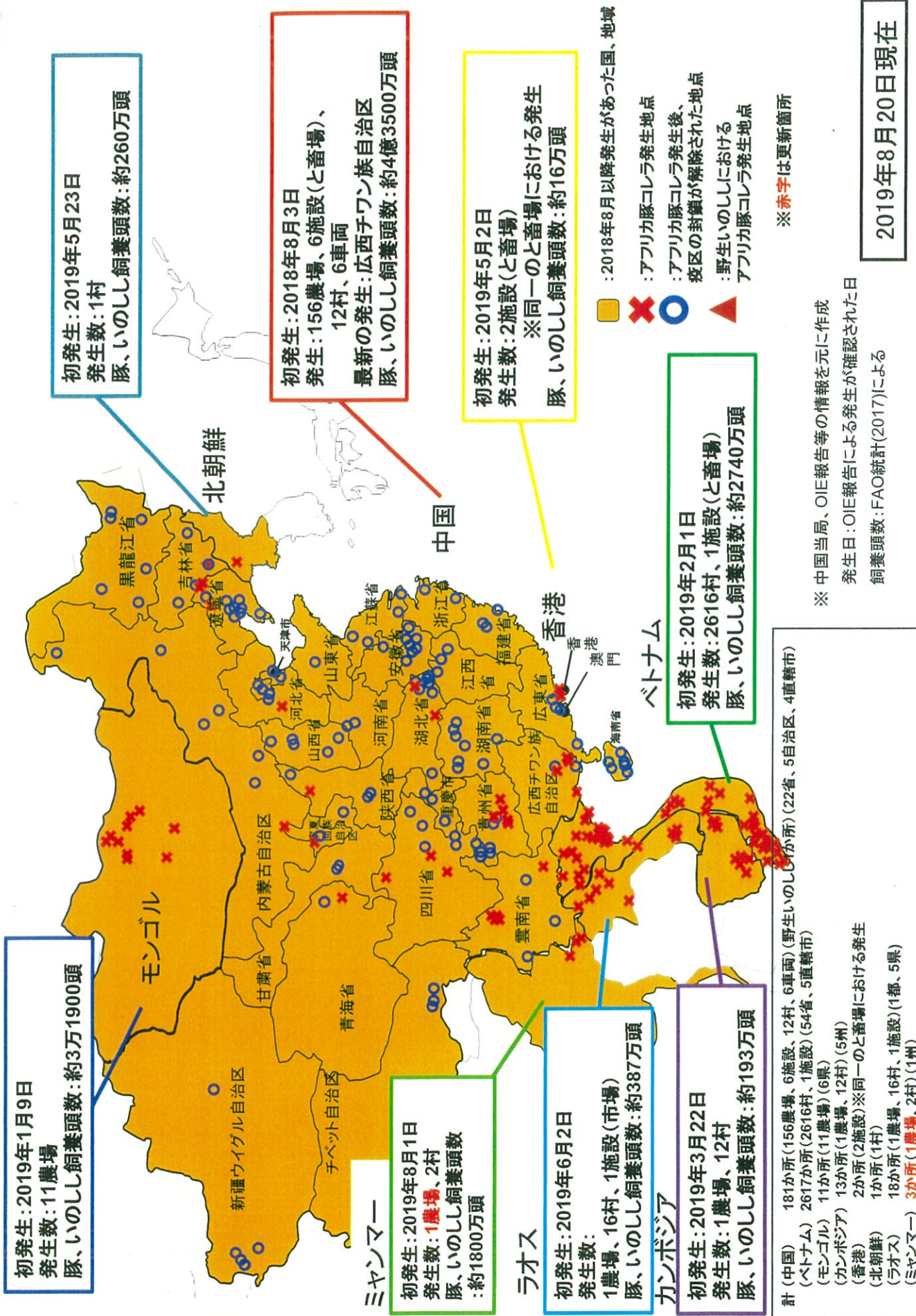
脚注3：2019年5月より発表形式変更されたため、旧ソ連はロシア、ウクライナの合計。

世界の大豆需給						
	期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	7月	112.98	347.04	150.82	355.06	151.26
	8月	114.53	341.83	148.87	354.32	149.17
アメリカ	7月	28.56	104.64	0.54	61.09	51.03
	8月	29.13	100.16	0.54	60.98	48.31
アルゼンチン	7月	29.45	53.00	3.90	52.15	8.00
	8月	30.45	53.00	3.90	52.15	8.00
ブラジル	7月	26.75	123.00	0.20	46.50	76.00
	8月	27.15	123.00	0.20	46.50	76.50
中国	7月	21.20	17.00	87.00	103.70	0.13
	8月	20.20	17.00	85.00	102.70	0.13
EU	7月	1.44	2.78	15.10	17.66	0.23
	8月	1.34	2.65	15.10	17.66	0.23

世界の小麦需給						
	期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	7月	275.15	771.46	178.91	760.15	183.11
	8月	275.49	768.07	179.00	758.16	182.63
アメリカ	7月	29.18	52.28	3.81	32.20	25.86
	8月	29.18	53.89	3.67	32.60	26.54
アルゼンチン	7月	1.39	20.00	0.01	5.95	14.00
	8月	1.39	20.50	0.01	5.85	14.50
オーストラリア	7月	4.91	21.00	0.15	8.50	12.50
	8月	4.97	21.00	0.15	8.50	12.50
カナダ	7月	4.67	33.30	0.45	9.30	24.00
	8月	4.67	33.30	0.45	9.30	24.00
EU	7月	9.81	151.30	5.50	128.00	27.00
	8月	9.74	150.00	5.50	127.50	26.50
中国	7月	139.69	132.00	3.50	128.00	1.30
	8月	139.77	132.00	3.50	128.00	1.30
インド	7月	16.99	101.20	0.02	98.00	0.50
	8月	16.99	101.20	0.02	98.00	0.50
ロシア	7月	7.73	74.20	0.50	40.50	34.50
	8月	7.99	73.00	0.48	40.00	34.00
ウクライナ	7月	1.40	29.00	0.08	9.80	19.00
	8月	1.41	29.20	0.08	9.70	19.50

アジアにおけるアフリカ豚コレラの発生状況

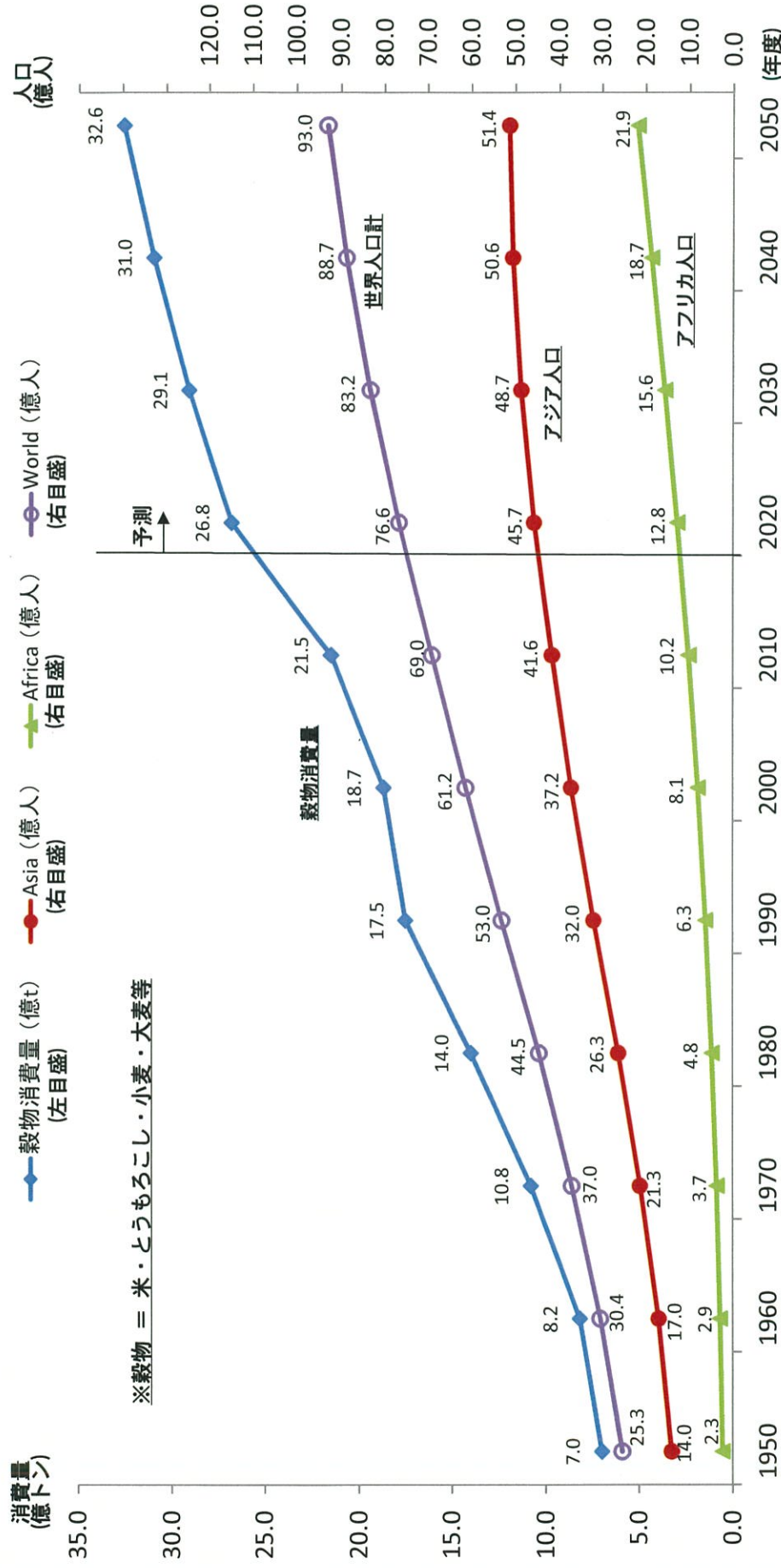
別紙①



世界の将来人口見通しと穀物消費量の推移

別紙②

- 人類史上1950～2050までの100年間は、新興国等の経済発展に伴い、かつてない人口の「大爆発」時代と言える。それを支えているのが「緑の革命」と言われる農業技術の進歩やGMO種子の普及による単収増・南米作付面積増等による穀物生産の拡大であるが、今後気候変動・水資源枯渇・土壌侵食等の懸念材料もあり、国連人口増予測をどこまで維持できるかは未知数である。
- 世界人口は、国連予想では1950(25.3) ⇒ 2020(76.6) ⇒ 2050(93.0億人)と1950年比3倍、3.7倍と拡大、何とこの100年間で68億人増加。地域別ではアジア/アフリカ地区における増加数は56億人と、その82%を占め、圧倒的な存在となっている。
- 一方、食糧消費量は1970(7.0) ⇒ 2020(26.8) ⇒ 2050(32.6億トン)と1950年比3.8倍、4.7倍と人口増以上に拡大。これは一人当たりの穀物消費量で見ても1950(280) ⇒ 2020(350キロ)となり、肉食の増加や小麦食の世界的普及によって一気に拡大した。(今後2050までは一人350キロ消費と予測)
- 穀物の海上貿易量については、先月号では2000(2.6) ⇒ 2020(5.5億トン)と倍増したが、基本的には生産地・輸出余力国が北米/南米/ヨーロッパと一部に偏在、他方人口がアジア/アフリカに集中(約80%)という構図は、穀物の大陸間移動(海上輸送)が今後も増大すると見るのが妥当と思われる。



資料 ①人口見通し: United Nations Population Division, Population Prospects, the 2010 Revision
 ②穀物消費量: USDA「WORLD Agricultural Supply & Demand Estimates」